



させていきたい, という期待から発案された.

会場の神奈川県民ホールにはこれらの全ての企画を開催するに便利な場所であった. 研究会場は200人程度を収容できる会議室, またコンサート会場は400人程度の収容人数と手ごろで, インスタレーションにはアートギャラリーを借りることができ, 複合企画には会場内の移動など, 大変便利であった. また, 同ホールには音情研と共催していただくことにより予算的にも大変助かった.

チュートリアルは20人程度の参加者であった. 主催側でマックの調達ができず, 参加者が持参することを義務付けたが, 熱意はあっても参加できない人が少なからずいたようで残念であった. 講義はOPENGLの初歩からマックスまで触れ, DIPS固有のチュートリアルを行い, 一日という少ない日程ながらも, いくつかの演習なども参加者は実習した. 本チュートリアルにより, 主催側は操作をする上での貴重な意見が得られ, 今後の設計の指針にフィードバックできる. また, DIPSの広報としても有意義であった.

研究発表は初日には80人程度の参加者があり大変な賑わいであった. 菅野由弘氏と菜孝之氏の特別講演が人気を博した. また, パネルディスカッションは, 短時間で議論がまとまらず, やや散漫になった感はあるが, 制作に関するテーマは, 内容が魅力的であれば集客が見込めることがわかった.

コンサートは二日とも6件の作品が発表された. 菅野由弘氏の司会による作者とのインタビューは, 聴衆に作品のポイントをわかりやすく解説でき, 会の進行上効果的であった. 両日とも150名程度の入場であった. 会場に見合った規模の聴衆とはならなかったが, 全て新曲を紹介できる場として機能することができ, 効果あるコンサートであった. ただし, 映像を提示するにはプロジェクタとスクリーンがやや不備で, いい効果を生み出せなかったのは残念である. また, 今回は研究者, あるいは技術者とのコラボレーションによる作品は, 必ずしも当初意図していたほど多くなく, 今後の課題として残された.

サウンドインスタレーションは, 長い期間展示でき, 聴衆も作品を堪能できたように思う. 特に最終日は, ギャラリーでの別企画がいくつか行われ, それらの聴衆, 観客に鑑賞してもらうことができ, 相互の交流ができて好都合であった.

今回初の試みとして行われたが, 残念なことに他の学会企画とバッティングをしたため, 集客に少し難があった. 今後は企画について見直し, またさらに発展した企画とできるように考えている.